

あとがき

余裕を持って編集を進めているつもりが、あっという間に締切がやってきました。この辺で、編集作業を終え、まとめに入ります。

昭和初期の古い資料の大半は、80周年の際に、朽ちかけたわら半紙刷りの資料をスキャンしたものです。今回、取り残していたもの、新たに見つけた資料を追加すべく考えいましたが、結局、僅かしか追加掲載は出来ていません。2002年以降のデータは多く掲載いたしましたが、それだけに終わった感もあります。また次回に取り残してしまいました。

前回、80周年の際は、CD-ROMにHTML版フォーマットでの配布で、画面対応のみで、印刷配布には不向きでした。今回は、印刷製本化でも対応できるよう、かつ動画やクラウドの写真アルバムにもリンクできる、インタラクティブなPDFフォーマットで作成しましたので、レイアウトも含め見やすく、前回以上にお楽しみいただけるものと思います。

今回、多くの来賓の言葉、会友、会員の言葉をいただきました。それぞれの文の中に多くの思いが込められています。かなりのボリュームになりましたが、大いに読み応えのある内容になっているかと思います。寄稿にご協力いただいた皆様方には厚く御礼申し上げます。

また、誌面には写真をふんだんにはめ込み、見やすい構成に工夫しました。さらに所蔵している写真のほぼ全てにアクセスできるようにも工夫しました。膨大な量の写真をイベントごとに自由に見る事ができます。

全くの素人編集で、使用ソフトウェアも勉強しながら、マニュアルを参照しながらの作業であり、十分に使いこなせていないところ、ミスタイプなどが校正できていない箇所がまだまだ多く残っているかと思います。また、構成デザインについても、もっと凝りたいところでしたが、余裕のない状況で、とりあえず決めた所が、結局最終校正まで変更できなかった心残りの部分も多くあります。このように多々至らない所が多くある状況ですが、趣旨と内容を伝えるという第一義をまずは果たすべきと割り切ったことと、どうかお許しただければと思います。

B Y Cも最近は日頃の行事をこらうじてこなしている状況でマンネリ化しており、クラブハウスも昔のように、自由にならない環境下、どうも、全体的にも、単なる利用者として枠にはめられた中で、新たな工夫が出来ない、しない状況に陥りつつあり、これではいけないと思うところです。この機会に、今一度、偉大な先人の功績を振り返り、また各人からの言葉も発していただく事により、今一度結束感が醸成されたら、本誌制作の苦勞が報われるのではないかと考えております。

古い貴重な資料も持っているだけでは意味がありません。これを皆が共有することで、意義が生まれます。また、同時に、B Y Cは日本最古級と自慢するだけでは全く意味のないことです。それぞれが、努力・工夫しながら楽しさを求めて行動する、そんな姿勢が求められていると思います。

セーリングは、正に自然の中に身を置き、純粋な自然エネルギーを利用して楽しむ、最も環境志向の高い、これからの時代にマッチした素晴らしいスポーツです。その楽しさを分かち合える仲間が、もっと増える事を祈っています。

編集責任者 青木英明

B Y C 1922-2012 (琵琶湖ヨット倶楽部創立 90 周年記念誌) ver. 1.2

発行： 琵琶湖ヨット倶楽部 滋賀県大津市柳が崎 1 - 2

発行日： 2012 年 9 月 9 日

発行責任者： 長谷川 和之

編集責任者： 青木 英明

事務局連絡先： aokix@sannet.ne.jp 青木英明宛

本誌内容の無断転載を禁じます。利用希望の際は事務局までお問い合わせください。

非売品

Copyright (c) BIWAKO YACHT CLUB, All Rights Reserved, 2012



琵琶湖ヨット倶楽部
BIWAKO YACHT CLUB